

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105685
法人名	医療法人啓塾会
事業所名	グループホームお城下
所在地	愛媛県松山市千舟町4丁目4番地5西田地舟町ビル
自己評価作成日	H27年10月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成27年10月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

経営母体の西田クリニックとの医療連携。本人の自由にして、行動制限をしない。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は松山市中心地の商業地域に立つビルの3・4階にあり、2階は母体法人が経営する診療所、5階が協力医の住いになっている。24時間緊急医療体制が整っていて、利用者と家族のみでなく職員にとっても安心につながっている。事業所は開設して10年目を迎え重度化が進み、医療的処置を必要とする利用者もいるが、整った医療体制のもと手厚いケアを行っている。また、慣れ親しんだ事業所で最期を迎えさせたいという家族の希望に応えて、多くの看取りを行っている。職員は利用者の生活歴を十分理解した上で尊重してケアにあたっており、心が通い合うことを喜びとして日々学びながらサービスの向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームお城下

(ユニット名) つるユニット

記入者(管理者)

氏名

木原弘美

評価完了日

H27年10月6日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) お城下の理念は、易しい意言葉で表されているが、その意味をみんなで考え支援の中に具現化するように努力している。また、入居系でありながら在宅系の考え方で支援の継続性について随時話し合いをしている。そのほか、その方の状態に応じて在宅への復帰または他の施設への店員支援を行っている。</p> <p>(外部評価) 開設当初からの理念である「よい匂い、よい肌触り、よい音(会話)、おいしい料理、よい環境(居心地のよい環境)」を大切に継続し、ユニット入り口や重要事項に掲載している。短い言葉だが、どうケアに活かすかリーダーを中心に具体的な事例を挙げて話し合い深めている。また利用者の生活歴を理解することの重要性を認識しながら、理念の実践に努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 商業地の中にあって地域との付き合いは難しい。同ビルのコンビニが撤退し常時の地域との付き合いはできにくい</p> <p>(外部評価) 町内会に加入し、町内会長を通して地域交流に努めている。事業所は市の中心地の商業地域にあり、日常的な交流は難しいが、秋祭りにはこども神輿が来たり、事業所が行う夏祭りは、職員の子どもなど大勢が集まってにぎやかに開催され、利用者の楽しみになっている。また、管理者は地域の小学校に出向き、認知症について理解を広める活動に参加している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 三番町神輿に入ってもらい、子ども達父兄の方々にも認知症の人の理解を深めてもらえるよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議で、参加くださった皆様のご意見を職員で話し合い検討し実現可能なものから実践に移している。	
			(外部評価) 運営推進会議は利用者、家族、町内会長、民生委員、他グループホーム管理者、市職員、地域包括支援センター職員の参加を得て2か月に1回開催している。会議では事業所の活動報告の他、事業所に設置しているAEDの使用方法について研修を実施する等、職員がテーマを決めて講話を行っている。また、町内会の情報を活用して外出計画を立てるなど、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に参加いただきご意見をもらっている。	
			(外部評価) 市職員や地域包括支援センター職員は、運営推進会議に出席して事業所の状況を把握し、情報を交換している。複雑な背景をもった利用者や経済的に困窮している利用者もあり、市担当課の職員に相談や協力を得ながら支援をしている。また、地域包括支援センターが行う事業に協力し、認知症の啓発活動に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 理解して実践している。拘束が本人をどんな気持ちにしているか、自分に置き換えて考える勉強を進めている。	
			(外部評価) 日中玄関を施錠せず、入り口に鳴子をつけて見守るようにしている。現在経管栄養を行っている利用者があり、やむをえずミトンを使用することもあるが、短時間にするよう努めている。その際、家族に口頭で説明を行い理解を得ている。言葉の拘束についても意識し、強い口調で言う職員はその都度注意するようにしている。また、新入職員には利用者の生活歴をよく理解して言葉を選ぶよう指導している。	利用者の重度化に伴い、医療的処置を必要とする利用者が増えやむなく抑制をすることもあるが、それが常態化することがないよう、常に振り返り検討を重ねていくなかで、最小限度にできるよう工夫することに期待したい。特に新入職員に抑制をしないケアが浸透していくことを期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ホーム内で常に話し合いを持っている。事例を通して全員の注意を喚起している。また過労にならないように職員の勤務体制を気をつけて実施している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 制度について話し合いを持っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時のあわただしい時期を避けたり、事前または入居して落ち着いてから十分に説明している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご利用者の意見、希望をできることからできるだけ早く実践している。できないことについては誠実に説明をして理解を求めよう努めている。	
			(外部評価) 管理者は家族に入居時や面会時に気軽に意見や要望を言ってほしいと伝えている。率直に意見を言ってもらえる利用者や家族も多く、要望があれば即対応するように努めている。また、年3回家族全員に案内を出し、運営推進会議の後に家族会を開催して意見や要望を聞き、運営に反映させるよう努めている。家族の協力を得て外出行事を行うこともある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 反映している。業務改善委員会、レクレーション委員会などを設け職員間で話し合いをして運営している。また、チーム全体で援助を行っているという実感が沸く様に努力している。 (外部評価) 管理者は「職員は宝である」と考えており、職員の事情に応じた勤務が可能になるよう配慮している。管理者も実際に現場に入って共に働き意思疎通を図っている。各ユニットリーダーが新入職員の教育にあたり、相談にも乗りながらチームケアの実現に努めている。また、各種委員会を設置して職員の自主的な活動を支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 努めている。常に勤務との調整をしながら、研修も行っている。また短時間勤務者も採用している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) オンザジョブラーニングを実践して個々の能力に応じての内部、外部の研修参加も進めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 運営推進会議に積極的に参加している	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 御本人の不安を軽減したり溶け込み易い雰囲気づくりを心がけている。ご家族が認知症を認めにくい場合もあるが、プライドに配慮しつつ時間をかけて、きづいてもらうように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご利用の初めに、見学していただいたりホームの雰囲気を感じ取っていただき、家庭訪問も試みたり、御本人の普段の姿を知るように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご希望をよく聞きホームで受け入れが可能かどうか見極めに努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 自立支援の立場から、できることはしていただき話し合いながら作業など行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) レクレーションなども参加型を試みたり、ご家族と話し合いできる協力はしていただいている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 行っている。ご本人が自由にご家庭電話したりご家族と出かけた法要に出かけたり友人の訪問もある。 (外部評価) 利用者にとっての馴染みの人や場所の情報は、入居時に家族から収集する他、日常の会話を通して把握するよう努めている。得られた情報は申し送りや記録に追加することで職員間で共有している。外出をした際自宅前を通過して懐かしい我が家を見て喜んでもらった利用者や、法要に出られるよう家族が迎えに来てくれる利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 認知症が進み、一人ひとりのレベルが違い個々のレベルに合わせた支援となっている	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 御本人やご家族の希望に沿って行っている	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 施設の決め事で生活を括らないで、食の嗜好や生活習慣などさまざまな点でご家族からの聞き取りなどしてできるだけ自由に窮屈でない生活支援を進めている。	
			(外部評価) 利用者の生活歴をよく理解した上で、利用者に合わせてコミュニケーションを図るよう努めている。利用者の重度化により、意向を表明することが困難な利用者もいるが、まばたき等残された機能を使って意思疎通を図っている。職員は気持ちを通じ合った時を仕事のやりがいと感じ、利用者の思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 出来るだけ御本人の心情を害さない範囲で普段のお話の中から生活歴や習慣その人らしい考え方や行動の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 申し送り連携で知れた情報をみんなで共有して御本人の今の状態を、できるだけ正確に把握し援助に反映している	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) みんなで月一回モニタリングを行い、援助目標が適切であるかどうか新しい援助目標が必要かなど常に状態のチェックをしている。	
			(外部評価) 計画作成担当者が、利用者と家族の意向を確認しながらアセスメントを行い、具体的な目標を立て介護計画を作成している。介護記録に日々の実施状況を記入すると共に、毎月モニタリングを実施して介護計画が実情に合ったものになっているか検討している。状態の変化があった場合はその都度、医師や看護師を交えてカンファレンスを行って見直している。介護計画は家族が面会に訪れた際に説明し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 行っている。経験の浅い職員には記録の仕方や情報の援助への生かし方を怜を上げて教えている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 空き室利用でショート受け入れを行い今菜援助目標で本人の状態にあった援助ができていないか確認している。また新しい課題があれば目標達成できるように援助している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 日課に当てはめない自由な雰囲気での支援している。子供界との交流、近くの商店街へ買い物などで交流している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 普段の受診に関しては、協力病院の西田クリニックとの医療 連携を行い利用者の体調変化についての情報有漢を行っている。 突発的な他の病気については専門医への受診も援助して いる。 (外部評価) 入居前のかかりつけ医に引き続き通院している利用者は、家 族が付き添って受診しているが、多くの利用者は協力医がか かりつけ医となっている。協力医は同建物内に住いがあるた め、24時間緊急時対応が可能であり、利用者と家族のみで なく職員にとっても安心につながっている。また、医療的処 置が必要な利用者に対しては、看護師が訪問して処置を行っ ている。歯科治療については、訪問歯科診療の利用ができる ようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 行っている。クリニックのナース、介護スタッフとの連携 で、ご利用様の体調変化について常に情報交換を行い体調 管理に勤めている。医療連携日誌をナースに記録してもらっ ている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 行っている。相談によってご本人とご家族の希望どおり行っ ている。入院などの彩は主治医からの医療情報提供書、介護 現場からは、情報提供も行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化に対応できるように、西田クリニックとの連携でお看 取りまでの援助を行っている。入居時や時期に応じて主治 医、ケアマネご家族での話し合いをもっている。 (外部評価) 事業所では、最期まで世話をしてほしいと希望する家族の要 望に応え、今までに30名余りの利用者の看取りを行ってい る。今年新たに「看取り指針」を作成し、終末期ケアについ て書類を整備した。入居時の意向確認から、状態の変化に応 じた話し合い、看取りの実施と終末期ケアを終えてからの検 討会も行うよう方針を決めて取り組もうとしている。職員は その都度学習を重ねながら、長く共に暮らした利用者を悔い なく看取ることができよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) すべてではないが行っている。現在は医療連携をしている西田クリニックに早くつなぐようにしている。すばやく連絡が取れるように体制を整えている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防講習者1名、消防訓練年2回常に事故を未然に防ぐ様に注意喚起している。H25・4月～義務となった消防経過う防災計画を作成し、運営推進会議での消防びよの確認を得ている。 (外部評価) 年2回消防署立ち合いのもと、避難訓練を実施している。夜間想定訓練も繰り返し実施している。避難場所の確保、避難用器具の設置をしているが、管理者は、ビルで火災が起きた時の避難が困難であることを認識し、日頃より火災を起こさないことが重要であることを繰り返し職員に指導している。建物は耐震構造になっており、備蓄として水の確保をしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 話し合いや、内部研修などによって姓名の呼び方、折り目正しい接し方など常に再認識を促している。 (外部評価) 利用者は人生の先輩であるという認識のもと、一人ひとりの人格を尊重するよう努めている。入居前に酒やタバコを好んでいた利用者には、継続して楽しめるよう配慮している。また、居室の入口にはのれんが掛けてあり、日中ドアを開けていても居室内が見えないようプライバシーに配慮している。利用者への呼び名については信頼関係を大切にして親しみのある呼びかけをしているが、過度な慣れ合いにならないよう注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の気持ちを汲み取って、医師反映ができるよう努めている。職員全員で取り組むよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 行っている。睡眠時間も、食事も、その人で違ってきているので時間強要せずのんびり過ごせるよう頭になっている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 服などもってこられたり理美容品を持ってこられたりしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 行っている。その人の状態に応じて自分で食べる喜びを味わっていただけるように。普通食、刻み食、ミキサー食、鼻腔からの栄養など。	
			(外部評価) ユニット毎に給食係りの職員が献立を考え、調理をしている。利用者の嚥下状態に合わせて食事形態を工夫しており、希望者の多いばら寿司も柔らかく調理して嚥下が難しい利用者にも好評である。正月、ひな祭り、クリスマス会などの行事には特別の献立を考えて作り、誕生日にはケーキを買ってきてろうそくを立て、皆でお祝いをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) その人の状態に応じて普通食、刻み食、ミキサー食、鼻腔からの栄養など。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) ご自分で出来る方は出来るところまでしていただき承引ができないところを援助する。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 行っている。可能な限りトイレ誘導。その方の能力に応じて、トイレ誘導、白パンツ、オム津。	
			(外部評価) 利用者の重度化が進み、おむつを使用している利用者が多いが、排泄のパターンを把握してトイレ誘導を行っている。また、排泄後はできるだけ早くおむつ交換ができるよう心がけ、臭いが残らないよう配慮している。入院すると、身体レベルが低下して退院してくる利用者が多いが、入院前の状態にもどれるよう排泄介助を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 取り組んでいる。動けにくい人も動きを取り入れ、食事服薬など。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日入浴し誰かが入っている。	
			(外部評価) 移乗台がある一般浴槽に2～3日に1回のペースで入浴ができるよう支援している。浴槽にゆったりと入れるよう時間をかけて介助をしている。浴槽のまたぎが困難な利用者は2人体制で入浴介助を行っている。また、入浴の苦手な利用者には、主治医が書いた手紙を渡すと入ることがあり、タイミングをはかりながら対応している。入浴ができない利用者は、ベッド上で清拭と染髪器を使用して洗髪し、清潔が保てるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 行っている。基本的には日課は無く。その人の時間で過ごしてもらっている。他の人に迷惑がかからない限りはその人の時間ですいみんをとる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 行っている。症状や状態について常に申し送りをし小まめに状態確認をし主治医に相談している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 基本的に自由日課なのでご自分のしたいことをしたいときにしていただいている。がいしゅつのレクリエーションも行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ご家族の協力をいただき、好きなときに行きたいところへ出かけるようにしている。	
			(外部評価) ワゴン車を使って数日かけて全員が外出できるよう支援している。春にはいちご狩り、秋はぶどう狩りに出かけ、城山公園まで行って、帰りにドーナツ店に寄ったり、銀天街や高島屋の喫茶店に出かけることもある。遠出が困難な利用者は屋上に上がり、外気浴、日光浴を楽しめるよう支援している。また、家族と一緒に外食やドライブに出かける利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) している。小口預かり金から買い物に行くとき自分で持ってもらって支払いをしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 行っている。手紙を出したり、電話を自由にかけてたりしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 掃除の行き届いたせいけつなかんきょうつくりに努めている。職員には清潔環境保全がいかに関戦勝の予防に役立つか常に理論を説明し、そうじの実践に役立っている。 (外部評価) 掃除が行き届き、感染症予防のための消毒にも日々気を付けており、開設してから一度も感染症の問題を起こしたことがない。吹き抜けに面してリビングがあり、オープンキッチンとダイニングセットが配置されている。壁には行事写真や事業所だより、手作りカレンダーが掲示され、かまぼこ板の展覧会に出展した利用者と家族の作品も飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファ、椅子の配置換え、席替えなどで孤立する人の内容に勤めている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ご自分の気に入ったなじみのものも置いたり、好きな写真を貼ったり、自由にしてもらってえええいる。 (外部評価) 居室は和室と洋室があり、エアコン、ベッド、クローゼットが備え付けられている。利用者は自宅から椅子や鏡台、テレビ、小型の仏壇を持ってきて居心地よく配置している。壁には手作りカレンダーや家族写真が飾られ、中には手形やリハビリメニューを貼っている利用者の部屋もある。居室入口には家族が持ってきた暖簾をかけて、居室内が見えないように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) できる範囲でできることを、疲れない程度してもらっている。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105685
法人名	医療法人啓塾会
事業所名	グループホームお城下
所在地	愛媛県松山市千舟町4丁目4番地5西田千舟町ビル
自己評価作成日	H27年10月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

経営母体の西田クリニックとの医療連携。本人の自由にして行動制限をしない

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成27年10月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は松山市中心地の商業地域に立つビルの3・4階にあり、2階は母体法人が経営する診療所、5階が協力医の住いになっている。24時間緊急医療体制が整っていて、利用者と家族のみでなく職員にとっても安心につながっている。事業所は開設して10年目を迎え重度化が進み、医療的処置を必要とする利用者もいるが、整った医療体制のもと手厚いケアを行っている。また、慣れ親しんだ事業所で最期を迎えさせたいという家族の希望に応えて、多くの看取りを行っている。職員は利用者の生活歴を十分理解した上で尊重してケアにあたっており、心が通い合うことを喜びとして日々学びながらサービスの向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームお城下

(ユニット名) かめ

記入者(管理者)
氏名 福島真理

評価完了日 H27年 10月 5日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) お城下の理念は易しい言葉で表されているが、その意味をみんなd 考えて支援の中に具現化するように努力している	
			(外部評価) 開設当初からの理念である「よい匂い、よい肌触り、よい音(会話)、おいしい料理、よい環境(居心地のよい環境)」を大切に継続し、ユニット入り口や重要事項に掲載している。短い言葉だが、どうケアに活かすかリーダーを中心に具体的な事例を挙げて話し合い深めている。また利用者の生活歴を理解することの重要性を認識しながら、理念の実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の人が何処に居るのか分かりにくい。どうビルのコンビニに撤退によって交流の機会が減少した。	
			(外部評価) 町内会に加入し、町内会長を通して地域交流に努めている。事業所は市の中心地の商業地域にあり、日常的な交流は難しいが、秋祭りにはこども神輿が来たり、事業所が行う夏祭りは、職員の子どもなど大勢が集まってにぎやかに開催され、利用者の楽しみになっている。また、管理者は地域の小学校に出向き、認知症について理解を広める活動に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 三番調味腰との交流で子ども達やご父兄にも少しずつ理解を深めてもらっている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議伝外部の方からのご意見ご提案を職員会議で検討実践可能なものから実施している	
			(外部評価) 運営推進会議は利用者、家族、町内会長、民生委員、他グループホーム管理者、市職員、地域包括支援センター職員の参加を得て2か月に1回開催している。会議では事業所の活動報告の他、事業所に設置しているAEDの使用方法について研修を実施する等、職員がテーマを決めて講話を行っている。また、町内会の情報を活用して外出計画を立てるなど、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議にてご意見をいただいている。	
			(外部評価) 市職員や地域包括支援センター職員は、運営推進会議に出席して事業所の状況を把握し、情報を交換している。複雑な背景をもった利用者や経済的に困窮している利用者もあり、市担当課の職員に相談や協力を得ながら支援をしている。また、地域包括支援センターが行う事業に協力し、認知症の啓発活動に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 理解し実践している。拘束に寄ってご本人がぢんなに感じるだろうかを自分に置き換えて考えるように取り組んでいる。	
			(外部評価) 日中玄関を施錠せず、入り口に鳴子をつけて見守るようにしている。現在経管栄養を行っている利用者があり、やむをえずミトンを使用することもあるが、短時間にしよう努めている。その際、家族に口頭で説明を行い理解を得ている。言葉の拘束についても意識し、強い口調で言う職員はその都度注意するようにしている。また、新入職員には利用者の生活歴をよく理解して言葉を選ぶよう指導している。	利用者の重度化に伴い、医療的処置を必要とする利用者が増えやむなく抑制をすることもあるが、それが常態化することがないよう、常に振り返り検討を重ねていくなかで、最小限度にできるよう工夫することに期待したい。特に新入職員に抑制をしないケアが浸透していくことを期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ホーム内で常に話し合い事例をどうして全員の注意を喚起している。また、過労にならないよう配慮している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 制度について機会あるごとに話し合っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時のあわただしいときを避けたり、事前または入居して落ち着いたときなどに十分に説明同意をもらっている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご利用者の意見・希望を実現が容易な事から、必要性の高いものからできるだけ早く実践している。	
			(外部評価) 管理者は家族に入居時や面会時に気軽に意見や要望を言ってほしいと伝えている。率直に意見を言ってもらえる利用者や家族も多く、要望があれば即対応するように努めている。また、年3回家族全員に案内を出し、運営推進会議の後に家族会を開催して意見や要望を聞き、運営に反映させるよう努めている。家族の協力を得て外出行事を行うこともある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 反映している。業務改善委員会レクレーション委員会など設置。職員の話し合いで運営している。 (外部評価) 管理者は「職員は宝である」と考えており、職員の事情に応じた勤務が可能になるよう配慮している。管理者も実際に現場に入って共に働き意思疎通を図っている。各ユニットリーダーが新入職員の教育にあたり、相談にも乗りながらチームケアの実現に努めている。また、各種委員会を設置して職員の自主的な活動を支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 努めている。常に勤務との調整を行い、出来るだけ外部の研修に参加できる機会を作っている。内部研修も行っている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) オンジョブラーニングで仕事を共にしながら取り組んでいる。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 運営推進会議への参加。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 御本人の不安を軽減し、溶け込み易い雰囲気づくりをして安心できるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご利用の初めに見学をしていただきホームの雰囲気や支援を見ていただく。ご家庭訪問をしたりして御本人の普段の姿をつかんだりしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご希望やご意見をよく聞き、ホームで野受け入れが可能かどうかまた、他の適切な施設があるかどうかも見極めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 自立支援の立場から、できることはしていただき話し合いながら、作業など行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族と話し合いできる支援はしてもらっている。また面会時間も常識範囲内で自由にしてもらっている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 行っている。ご自由にご本人がご家族に電話したりご家族と出かけたり外泊も行っている。面会者は非常に多い。 (外部評価) 利用者にとっての馴染みの人や場所の情報は、入居時に家族から収集する他、日常の会話を通して把握するよう努めている。得られた情報は申し送りや記録に追加することで職員間で共有している。外出をした際自宅前を通過して懐かしい我が家を見て喜んでもらった利用者や、法要に出られるよう家族が迎えに来てくれる利用者もいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) お気に入りの人と自由に話したりお部屋の訪問をしたり車椅子や歩ける人は交流している。散歩介助も組み合わせを考え楽しく過ごせるように工夫してる。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) ご本人やご家族が希望されればおこなっている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 施設の決め事で生活を括らないで、食の好みや生活習慣などさまざまな点で、ご家族からの話や聞き取りの中で汲み取り、できるだけその人らしい生活を支援している。 (外部評価) 利用者の生活歴をよく理解した上で、利用者に合わせてコミュニケーションを図るよう努めている。利用者の重度化により、意向を表明することが困難な利用者もいるが、まばたき等残された機能を使って意思疎通を図っている。職員は気持ちを通じ合った時を仕事のやりがいと感じ、利用者の思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 真情に沿いながら普段の会話の中で生活歴生活環境を知り、その人らしい考え方や行動の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 申し送り気づいたことの話し合い職員間の連携を持って御本人の今の状態を出来るだけ正確に把握し共有して援助に反映している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 月1回のモニタリングに多くの職員が参加し共有して、援助目標の見直し援助の適切性、問題点の解決法など話し合っている。また必要になったら介護計画のみなおしに反映している。	
			(外部評価) 計画作成担当者が、利用者と家族の意向を確認しながらアセスメントを行い、具体的な目標を立て介護計画を作成している。介護記録に日々の実施状況を記入すると共に、毎月モニタリングを実施して介護計画が実情に合ったものになっているか検討している。状態の変化があった場合はその都度、医師や看護師を交えてカンファレンスを行って見直している。介護計画は家族が面会に訪れた際に説明し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 行っている。気づいたこと、御本人の様子など記録の仕方を共有して介護計画に反映できるようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 、その人の感性を生かすこと両方を活かせるように努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 日課に当てはめない重菜雰囲気での支援子供界との交流など安全を確保しながらおこなっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 普段の受診に関して協力体制にある西田クリニックを受診 し、特別にご本人ご家族が希望される主治医がある場合はご 希望に沿って行っている。 (外部評価) 入居前のかかりつけ医に引き続き通院している利用者は、家 族が付き添って受診しているが、多くの利用者は協力医がか かりつけ医となっている。協力医は同建物内に住いがあるた め、24時間緊急時対応が可能であり、利用者と家族のみで なく職員にとっても安心につながっている。また、医療的処 置が必要な利用者に対しては、看護師が訪問して処置を行っ ている。歯科治療については、訪問歯科診療の利用ができる ようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 行っている。クリニックのナース、介護スタッフでご利用者 の体調変化について常に情報交換を行い体調管理に努めてい る。ナースに医療連携日誌を記録してもらっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 行っている。ご相談によってご本人とご家族の希望どおり 行っている。入院時などは主治医から医療情報提供書介護か らは介護情報提供書を出している	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化に対応できるように西田クリニックとの医療連携でお 看取りまでの援助を行っている。入居時や時期に応じて主治 医、ケアマネ、ナースご家族との話し合いを行っている。 (外部評価) 事業所では、最期まで世話をしてほしいと希望する家族の要 望に応え、今までに30名余りの利用者の看取りを行ってい る。今年新たに「看取り指針」を作成し、終末期ケアについ て書類を整備した。入居時の意向確認から、状態の変化に応 じた話し合い、看取りの実施と終末期ケアを終えてからの検 討会も行うよう方針を決めて取り組もうとしている。職員は その都度学習を重ねながら、長く共に暮らした利用者を悔い なく看取ることができよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) すべてではいが行っている。現在はできるだけ早く急変に気づきできるだけはやく西田クリニックにつなぐ体制となっている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防講習者1名、消防訓練年2回行っている。H25・4月～義務となった消防計画防災計画を作成し、運営推進会議で城東消防署に確認を得た	
			(外部評価) 年2回消防署立ち合いのもと、避難訓練を実施している。夜間想定訓練も繰り返し実施している。避難場所の確保、避難器具の設置をしているが、管理者は、ビルで火災が起きた時の避難が困難であることを認識し、日頃より火災を起こさないことが重要であることを繰り返し職員に指導している。建物は耐震構造になっており、備蓄として水の確保をしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 話し合いをして内部研修もして姓名の呼び方や折り目正しい接し方など仕事としての礼儀を常に再認識するように努めている。	
			(外部評価) 利用者は人生の先輩であるという認識のもと、一人ひとりの人格を尊重するよう努めている。入居前に酒やタバコを好んでいた利用者には、継続して楽しめるよう配慮している。また、居室の入口にはのれんが掛けてあり、日中ドアを開けていても居室内が見えないようプライバシーに配慮している。利用者への呼び名については信頼関係を大切にして親しみのある呼びかけをしているが、過度な慣れ合いにならないよう注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の気持ちを汲み取って意思決定ができるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 行っている。個々人の時計で行動できるように配慮して支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 行っている。自分の好きな服を選んで着る。好きな髪形に訪問利用の人と話して決めるなど。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 行っている。自分の嫌いなものは食べなくても代替を造るなど。食器拭き下ごしらえの手伝いをできる人でもらっている。	
			(外部評価) ユニット毎に給食係りの職員が献立を考え、調理をしている。利用者の嚥下状態に合わせて食事形態を工夫しており、希望者の多いばら寿司も柔らかく調理して嚥下が難しい利用者にも好評である。正月、ひな祭り、クリスマス会などの行事には特別の献立を考えて作り、誕生日にはケーキを買ってきてろうそくを立て、皆でお祝いをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 行っている。その人に応じた、食事の形態普通食、刻み食、ミキサー食、経管栄養。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) ご自分でできる人は自分でできない人はできないところを援助している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 行っている。可能な限りトイレへ行ってもらっている。その方の能力に応じて援助方法を変えている。	
			(外部評価) 利用者の重度化が進み、おむつを使用している利用者が多いが、排泄のパターンを把握してトイレ誘導を行っている。また、排泄後はできるだけ早くおむつ交換ができるよう心がけ、臭いが残らないよう配慮している。入院すると、身体レベルが低下して退院してくる利用者が多いが、入院前の状態にもどれるよう排泄介助を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 取り組んでいる。できるだけ身体に動きを取り入れ。腹部マッサージも取り入れている	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日入浴介助し誰かが入っている。	
			(外部評価) 移乗台がある一般浴槽に2～3日に1回のペースで入浴ができるよう支援している。浴槽にゆったりと入れるよう時間をかけて介助をしている。浴槽のまたぎが困難な利用者は2人体制で入浴介助を行っている。また、入浴の苦手な利用者には、主治医が書いた手紙を渡すと入ることがあり、タイミングをはかりながら対応している。入浴ができない利用者は、ベッド上で清拭と染髪器を使用して洗髪し、清潔が保てるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 行っている。基本的に日課はないが、自由に自分の時間での睡眠を大切にしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 行っている。症状や状態について常に申し送りなどで共有し、主治医と連携をとって体調管理に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 基本的に自由日課なのでご自分のしたいことを自由に行っている。外出のレクリエーションなども行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ご家族の協力も得て好きなきに好きなところは出かけたり近くを散歩したりする。	
			(外部評価) ワゴン車を使って数日かけて全員が外出できるよう支援している。春にはいちご狩り、秋はぶどう狩りに出かけ、城山公園まで行って、帰りにドーナツ店に寄ったり、銀天街や高島屋の喫茶店に出かけることもある。遠出が困難な利用者は屋上に上がり、外気浴、日光浴を楽しめるよう支援している。また、家族と一緒に外食やドライブに出かける利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 行っている。小さな買い物はご自分で支払っていただく	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 行っている。手紙を出したり自分で電話をしたりしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 掃除の行き届いた清潔な環境づくりに努めている。季節のお花などで楽しんでいる。 (外部評価) 掃除が行き届き、感染症予防のための消毒にも日々気を付けており、開設してから一度も感染症の問題を起こしたことがない。吹き抜けに面してリビングがあり、オープンキッチンとダイニングセットが配置されている。壁には行事写真や事業所だより、手作りカレンダーが掲示され、かまぼこ板の展覧会に出展した利用者と家族の作品も飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファや椅子の配置で孤立する人の居ないように配慮している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ご自分が昔から使っていたものをおいたり気に入った写真を飾ったりしている。 (外部評価) 居室は和室と洋室があり、エアコン、ベッド、クローゼットが備え付けられている。利用者は自宅から椅子や鏡台、テレビ、小型の仏壇を持ってきて居心地よく配置している。壁には手作りカレンダーや家族写真が飾られ、中には手形やリハビリメニューを貼っている利用者の部屋もある。居室入口には家族が持ってきた暖簾をかけて、居室内が見えないように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) できる範囲でできることを疲れない程度することで役割のある感じを楽しんでもらっている。	